

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2007年度～2010年度

課題番号：19203035

研究課題名(和文) パブリックセクターの高等教育機関における授業料の国際比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study on the tuition charges in Public Institutions of Higher Education

研究代表者

丸山 文裕 (MARUYAMA FUMIHIRO)

国立大学財務・経営センター研究部・教授

研究者番号：60144888

研究代表者の専門分野：高等教育論

科研費の分科・細目：分科＝教育学、細目＝教育社会学

キーワード：教育社会学

1. 研究計画の概要

本研究は、国立大学の経営、財務に密接に関連している授業料について、その水準の考え方の歴史的経緯、決定関与者、決定プロセス、経営財務との関係などを中心に、アメリカの州立大学およびヨーロッパ主要諸国の大学との比較分析を行い、検討するものである。具体的には以下の点について研究を進める。

- (1) 戦前の大学の授業料の実態について、データを収集し、分析する。
- (2) 戦後の国立大学についての授業料政策の検討および授業料水準設定の思想とプロセスを分析する。
- (3) アメリカ州立大学の授業料の実態をデータ分析と訪問調査によって解明する。
- (4) 近年大学大衆化が急速に進んだヨーロッパ諸国の大学授業料水準の実態を大学、政府等への訪問調査、文献調査によって明らかにする。
- (5) 国立大法人の近年の授業料動向を国立大学の財務担当理事に対するアンケート調査および訪問調査などで解明する。

2. 研究の進捗状況

- (1) 戦前の大学の授業料の実態については、連携研究者などから研究報告会を開き、研究を進めている。
- (2) 戦後の国立大学についての授業料政策については、文部科学省の関係者を講師に招き、研究会を実施し、情報を収集している。
- (3) アメリカの実態については、ニューヨー

ク州政府、カリフォルニア州、テネシー州、ミシガン州等を訪問し、そこでの州政府、州立大学の実態を調査した。

- (4) ヨーロッパについては、ドイツ、オーストリア、フィンランド、デンマーク、等を訪問し、大学の財政について現地調査を行った。
- (5) 国立大学法人の授業料については、学長、財務担当理事、学部長対してアンケート調査をおこない、実態把握に努めている。

3. 現在までの達成度

- (1) 戦前の大学の授業料の実態については、資料を収集し、分析を行っている。今後も引き続き行う。
 - (2) 戦後の国立大学の授業料については、資料を収集し、分析を行っている。今後も引き続き行う。
 - (3) アメリカの州立大学の授業料については、現地調査も予定通り行い、研究成果も出している。
 - (4) ヨーロッパの大学の授業料については、現地調査も順調に行い、研究成果も出している。
 - (5) 国立大学の管理者へのアンケート調査は2009年に済ませ、その分析も進め、研究成果も様々な形で出している。
- 以上、研究は第3年度まで順調に進捗し、研究成果も出している。

4. 今後の研究の推進方策

研究最終年度も予定通り、研究を進めるつもりであり、その障害もさして見当たらない。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計3件）

①丸山文裕「高等教育への資金配分」『大学財務経営研究』第6号, 2009年, P.17-28,
（査読有り）

②丸山文裕「アメリカ州立大学における管理
と運営」『大学財務経営研究』第5号, 2008
年, P.15-28,（査読有り）

③丸山文裕「高等教育への資金配分」『大学
財務経営研究』, 第4号, 2007年, P21-34,
（査読有り）

〔学会発表〕（計1件）

①丸山文裕 山本清「国立大学法人化のイン
パクト」日本高等教育学会, 長崎大学,
2009年5月23日

〔図書〕（計1件）

①丸山文裕『大学の財政と経営』, 東信堂,
2009年, 231ページ

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕